

会 議 録

会議の名称	平成 30 年度 第 1 回五霞町総合教育会議
開催日時	平成 30 年 12 月 18 日（火） 午前 10 時 30 分から 11 時 37 分まで
開催場所	五霞町中央公民館 3 階 青少年研修室
出席委員	町 長 染 谷 森 雄（会議議長） 教 育 長 千 葉 道 子 教育委員 増 田 清 教育委員 鈴 木 昇 教育委員 小 村 隆 宜 教育委員 石 塚 和 実
事務局	総 務 課 課 長 山 中 一 郎 主 幹 鳩 貝 浩 之 主 査 中 里 善 匡 教育委員会 次 長 猪 瀬 英 子 主 幹 金 子 弘 光
会議次第	1 開会 2 町長挨拶 3 議題 （1） 東・西小学校における教育懇談会の実施結果について （2） 町立学校のあり方の検討について （3） その他 4 閉会
配布資料	平成 30 年度 第 1 回五霞町総合教育会議次第
会議の公開	公開
傍聴人数	0 人

議 事 録

発言者	会議要旨・決定事項
鳩貝主幹	皆様、こんにちは。大変お疲れ様でございます。定刻になりましたので、ただ今から平成 30 年度第 1 回五霞町総合教育会議を開会させていただきます。 会議に入ります前に、本日の資料を確認いただきたいと思います。まず、会議次第がございまして、その後資料ナンバー1 から 4 までの 4 種類の資料となっています。御確認をお願いします。 それでは、まず始めに、染谷町長から御挨拶を申し上げます。
染谷町長	改めまして、おはようございます。本日は、年末のお忙しい中、教育委員の皆様には、教育委員会の定例会後に引き続きまして、第 1 回目の五霞町総合教育会議に御出席いただきまして誠にありがとうございます。 御承知のように、インフルエンザが猛威を振るっておりまして、中学校は学校全体が休みとなっており、小学校の方にも飛び火をしているということで、本日午後に予定されています青少年の主張大会、開催はしますけれども、傍聴はなし、ということで、残念に思っているところですが、健康第一ということで、しっかりこれを守っていたいただければと思います。 そのような中で、本日の総合教育会議の主なテーマでございますが、教育懇談会の結果についていろいろ報告いただくわけですが、先般の 12 月定例議会におきましても、一般質問で学校統合の問題が出されました。このことについては、今年度の第 1 回教育懇談会、この中で、皆様からの御意見を頂いているということを御報告させていただいたところです。 一般質問の中では、学校統合、また一方では、小・中一貫教育について御質問も頂いたところでございます。これは、じっくりと皆様から御意見を頂いた中で、「五霞町の教育の在り方は、どれが一番いいのか」この方向性を総合教育会議の中でも発信していけたらいいのかな、と思っているところでございます。 もう一点、英語教育についても、一般質問で質問が出ました。平成 32 年度、2020 年度からですが、英語が教科化されるということです。小学校 5、6 年生の部分ですが、完全実施がスタートするわけでございます。英語力を高めるということについての一般質問も出ましたが、五霞町は幸いなことに教育長を始めとして各学校の先生方に御尽力いただいているところです。

	境町は、五霞町といろいろ比べられることが多いのですが、幸いにして五霞町の英語教育については、前向きに取り組んでいただいております。境町と比べても劣らないということで、現在、進めさせていただいているところでございます。英語教育をなお充実させるために、来年度予算に関連予算を組み入れたいと思っています。 今、A L Tが二人おられますが、もう一人増やして、3校に一人ずつ配置し、いつでもA L Tが待機してコミュニケーションがとれるというように進められたらと考えているところでございます。 何をするにしても、何かを習得するというのは、本人の意欲次第かと思えます。幾らいい先生がいても、英語教育を充実させたからと言っても、本人に意欲がないと習得できません。ですので、個人個人に学習意欲を持たせるための教育の方も、五霞町においてはしっかりとしていきたい、また、お願いしたいとそうように考えているところでございます。 そのような中で、本日は、冒頭申し上げましたとおり3点ほど皆様に御協議をいただくわけでございます。御協議のほど、よろしくお願い申し上げまして御挨拶とさせていただきます。どうも御苦勞様でございます。
鳩貝主幹	ありがとうございました。 申し遅れましたが、本日の進行をさせていただきます、総務課 鳩貝と申します。よろしくお願いします。 それでは、3番の「議題」の方に入らせていただきます。 進行につきましては、会議の設置要綱に基づきまして、町長の進行でお願いいたします。
染谷町長	それでは、早速ですが、会議に入らせていただきます。 まず、協議事項1でございます。 「東・西小学校における教育懇談会の実施結果について」を議題とさせていただきます。教育委員会から御説明をお願いします。
金子主幹	はい。教育委員会事務局の金子でございます。資料の1と資料の2を使いまして御説明させていただきます。まず資料の1でございます。先月、11月の20日と21日に東西小学校のPTA役員、地区役員の代表などに配布した資料の説明でございます。 (資料1及び資料2の朗読説明) 資料に基づく説明は、以上になります。
染谷町長	ありがとうございました。 ただ今、先般開催されました教育懇談会の実施結果について御説

	明をしていただきました。このことについて、何か御質問はございますか。
小村委員	先ほど児童数の推移が、表であったかと思います。前回の会議の時もお話しさせていただいたのですが、工業団地等が整備されて、今後、五霞町の人口が変わるという計画をされているということでしたが、今後の人口の推移の予想などがありましたら教えていただければと思います。
染谷町長	はい。定住化対策、つまり、少子化対策の一環で、五霞町に若い世代に住んでいただこうと考えています。定住化対策ですが、町も今まで地方創生事業の中で、いろいろな調査をさせていただきました。 定住化に向けて、町で都市計画マスタープランに入れたいと思っているのが、新しい住居系市街地の整備です。五霞町が、南栗橋駅に近い場所ということで、住居系市街地の整備計画は持っているのですが、需要と供給ではありませんけれども、これらを調査しないと、「町が住宅を作りました。しかし、入る人が居ませんでした」では、かえって重荷になってしまいます。 人口が増える時代でしたら、住居系市街地の整備をすることは問題ないのですが、逆に減っていく時代ですから、需要と供給とをしっかりと把握した上で一つの事業をやっていかないと、大きなマイナスになってしまいます。 そこで、今回の地方創生事業の中では、近隣も含めて調査させていただきましたが、結果としますと、久喜市にしても幸手市にしても、マンション等々、戸建てもそうなのですが、非常にまだ余裕があると言いましょ。空いている部分があるということで、その辺を踏まえたとき、五霞町が住居系市街地を作ったらどうなるのかという一つの課題がございます。 もう一つが、P F I 方式、要は、民間の協力を頂いて民間を巻き込んだ住宅作りのことをいいます。これも、検討して進めてきました。しかし、御承知のように、五霞町は、全域が農振地域、つまり、農業振興地域ですので、住宅がすんなり建つのは原宿台だけとなっています。都市計画区域となっていて、あの中で二つ指定して、民間業者といろいろ話し合いを持ってきました。 ところが、やはり、「学校が遠い」というお話と周りにまだ空き家があるというようなお話があり、それならば「学校のそばがいいのか」という話になると、今度は、市街化調整区域に入っているものですから、農地転用に時間が掛かってしまう。

	五霞町は、これらの点で課題がございます。お隣の境町は、ほとんどが都市計画区域に入っていますから、アパートもすぐ建ちますし、そういう部分では、事業を進めるにはやりやすい所なのですが、五霞町はまず農地転用をしないと事業ができない。 それと、もう一つが、いろいろ調査すると、企業関係もG L Pも竣工式をやりましたが、企業関係の皆さんに聞くと「五霞町は通える場所」ということで、15分くらいの中で駅がざっと四つくらいあると。J Rの栗橋駅を始め、南栗橋駅、幸手駅。バイパスができると杉戸高野台駅が近くなるということで、非常に便利さもありますが、かえって、これがマイナスになっているのかなとも思うのですが、人口増の予測というのが非常に難しい面もございます。 人口増を、定住化を促進するのはいいのですが、その前に、まず、人口の流出を防ぐ必要があると考えています。五霞町の人、結婚するとよそへ出て行くという傾向があります。近くの、例えば、「南栗橋へ行ってアパートを借りる」という傾向が見られますので、まず、この「出て行くのを防ぐ」というのを先にやりたい。 それから、先般、町の空き家対策協議会を開催させていただきました。空き家も、以前は84件だったのですが、5件増えて89件となっています。ただ、空き家になったら100件を超えました。その中で、動いているのが15件あります。売買もあり、それから、賃貸で貸し借りもありました。 幸い、15件がその中で動いているという状況です。そういうことで、まず、手っ取り早いのは、空き家なら即定住していただけるという面もあって、これら両面から、今、定住化を進めているところですが、「何年に何人くらい増えるでしょう」という予測は、非常に難しいと思います。ですから、この生徒数も、教育長とも話をするのですが、50人前後で推移していくのではないかなと思います。 そのほか、何かございますか。 無いようでしたら、次の議題、協議事項の2へ移らせていただきます。町立学校の在り方の検討について、これを議題としたいと思います。教育委員会から説明をお願いします。
金子主幹	はい。それでは、資料の3を使って御説明します。資料の3をお願いします。町では、五霞町公共施設等総合管理計画の個別施設計画の作成の準備を進めてございます。お手元の資料は、全体の計画から学校教育の部分だけ抜粋した物でございます。 (配付資料の朗読説明)

	続きまして資料の 4 を御説明します。 (配付資料に基づき説明) ・先進地（河内町）視察、教育懇談会を終え、現時点ではフェーズ 1 にあること。 ・フェーズ 2 で統廃合の意思決定をすること。 ・フェーズ 2 で「統合」となった場合にフェーズ 3 へ進むこと。 ・フェーズ 3 では「検討組織」で統合に関する具体的な作業を行い、説明会の開催などが予定されていること。
染谷町長	はい、ありがとうございました。 ただ今、町立学校の在り方の検討について、公共施設の総合管理計画の中で個別の計画である学校施設の部分、また、今後の学校施設の在り方について説明をしていただきました。今、説明がありましたように、公共施設の総合管理計画については、町の方で作り上げます。町の公共施設は、たくさん在るわけでございますけれども、多くが高度経済成長期に作られました。これは、五霞町だけではなく、日本全体がそういう傾向となっています。 当然、人口増を見込んだ中での施設ということで、大きめの施設ができています。それが 50 年経過して、ちょうど老朽化したということで、今後、どう運営するか。これが課題でございます。五霞町も今説明があったように、教育関係施設も大変多いわけですが、これらも含めて今後は検討していかななくてはならない。 これらを検討するに当たっては、やはり、一つは学校の統合を含めての検討も同時に進めなくてはなりません。先ほど説明がありましたように、フェーズ 1 で去年、総務課と教育委員会とで事務レベルで先進地である河内町の視察をさせていただきました。 河内町も、学校統合の問題が起きてから 7 年間経過した中で、学校がそれぞれ町の端に寄っているということで、「通学が大変になるので、新たに町域の中間に建てよう」というような結論になったようです。 五霞町と河内町とは条件的に違い、河内町の場合は小学校が五つ在ったのを四つにして中学校が二つ在るのに比べ、五霞町の場合は昔から「四つの分校から、本校である今の西小学校に 5 年生から通う」という流れがあったものですから、中学校と西小学校とが同じような場所に建っていると。このようなことから五霞町は、河内町のような心配はないという面がございます。この検討の中にもございますように、小・中 9 年制とするとしても、中学校も西小学校のすぐ脇

	ですから、スムーズに 9 年制の体制が取れるというメリットもあるということでございます。 ただ、河内町でもそうだったのですが、じっくりと検討する必要があるかと思います。拙速な答はまずい。これは、政治の一つの争点にもされます。それをトップダウンでやるのかと。トップダウンでやるのが、一番早く答が出るのですが、地域コミュニティも含めて小学校の統合に関しては問題がいろいろあります。 やはり、いかに住民の皆さん、また、保護者の皆さんと合意形成を図っていくか。私は、それを基本にして進められたらいいのかなと、そんな思いでございまして、今、公共施設総合管理計画の方から見ると教育の拠点という中で小・中一貫か、西小学校への統合というのが望ましいということを経験性として出させていただいているところです。 先ほど、資料の 4 の方では今後の進め方という中で、飽くまでこれは案なのですが、これまでフェーズ 1 を進めてきておりまして、今年度は、今後この流れをどう進めていくかに掛かってくるかと思います。今の経過とこの計画の内容について御説明いただきましたので、皆さんから御意見があれば、お伺いしたいと思います。
小村委員	先ほど町長からありました資料 33 ページの五霞町教育環境という観点では、現状では課題の多い状況にあるとのことですが、この課題についてもう少し具体的に教えていただければと思います。
猪瀬次長	ここで申し上げている現状の課題ですが、資料にも載っていますように、まずは、施設の老朽化というのが課題の一つとなっています。また、その前段で、先ほどから話に出ていますように、少子化ということで、小学校は各学年一クラスになっていまして、東小学校が 5 年生のみ二クラスあるだけで、ほかは西小学校と同様に単学級となっているというのが課題となっています。 教育懇談会でも使った資料の中に、デメリットという部分があるかと思うのですが、少子化ということと施設の老朽化の部分が、現在の大きな課題であると思います。学習内容では、教育課程については充実を図っているということで、前段で説明をさせていただいておりますので、よろしくお願いします。
小村委員	ありがとうございます。
染谷町長	よろしいですか。そのほか、ございますか。
増田委員	先ほど町長のお話の中にありました人口問題。日本の国全体の人口が減ってくるということで、五霞町だけではないということです。

	けれども、特に五霞町、河内町、大子町については、茨城県の中でも将来は町そのものが消滅してしまうのではないかと、というようなデータも出ているようですので、少しでも人口を増やす方法を考えていかなければならないなと思っております。 その中で、先ほど、境町の場合には、どこでも家もアパートも建つと仰っていたかと思います。しかし、五霞町の場合は、ほとんどが農振地域だということですが、この農振地域というのは、今後、永久に続くのでしょうか。それとも農振地域を変えることはできるのでしょうか。それをお伺いしたいと思います。
染谷町長	はい。これは、国の法律の中で定められているのですが、状況によって、それぞれ条件がそろえば、農業振興地域からの除外を認めていただけます。インター周辺もそうなのですが、工業用途の地域に変更していただきました。 五霞町も都市計画マスタープラン、また、第 6 次総合計画の中で農業振興地域からの除外をしていただきたい区域を決定して、それをもって県と交渉して国にお願いする。手続的には、そのような流れで良かったと思いますが、総務課長、説明願います。
山中課長	はい。ただ今、町長からありましたように、農業振興地域とは「農業を振興する地域」ということで、五霞町全域、2,308 ヘクタールが編入されたわけですが、五霞町は、昭和 40 年代から農工両在ということで振興を図ってきた、という歴史がございます。そこには、当然ですが、町、県、また、国の予算が投入され、農業を振興するための整備が成されてきたわけです。 そのような、農業を振興してきた歴史があり、それゆえ厳しい規制が掛けられていると思うのですが、ただ、先ほど町長からもありましたように、町、県、あるいは国の状況を鑑み、昭和 40 年代には工業系の開発を、昭和 50 年代には原宿台を含めた開発を、それから平成に入って押出の工業団地の整備を、その後、I C 周辺というように、その都度、開発事業が行われてまいりました。 圏央道も開通し、新 4 号国道についても、開通は昭和 56 年ですが、それから二十数年経って交通量も非常に増えたということもあり、町の環境は、非常に大きく変わっているということがございます。しかしながら、一度決めた計画というのは、五霞町全体をくくっていますので、計画を変更するには、変更後の計画の実効性、担保性、また、いつ頃、変更後の計画が実現するのかといった観点からの農林調整、更には都市計画サイドと協議をして、その上でようやく農業振興計

	画の見直しといったことが成されるのではないかと思います。 そういった計画なしに、「農業振興地域の、この部分を除外してください」という話は通らない、というのが現実でございます。「この区域については、このような用途で、このような使い道をするということで、町としては進めたい」あるいは「企業、民間の事業者が、確実に進出する」ということを町の計画に入れて、県と協議をした上で、元々の計画の見直しが図られるのではないかと考えます。 このような理由から、元々の計画の見直しについては、その都度、進められるものと考えます。計画の見直しに関して一番大きな礎となるのが、町の総合計画となります。 総合計画が、町では一番の、最上位の計画でありますので、その中で、人口のこと、土地の利用のことも含めまして、いろいろなことを御協議いただき、町の方向性、指針となるような計画となるようにしていただければと思います。
染谷町長	総務課長からもありましたように、町は農業振興地域という網を掛けられており、それがネックとなっています。今すぐに住宅が建ちますという区域指定がされているのは、原宿台のみとなっています。 問題は、南栗橋駅に近い所で、できればキューピー近辺を住宅地にして、西小学校の生徒数が増えたらいいなという思いがありまして、都市計画マスタープランについても県と交渉をしていくわけですが、「まだ原宿台が空いているのではないか」という話が出てきます。条件としては、「原宿台が一杯になれば、次の住居系市街地の整備に着手しても良い」と。「原宿台を住居系市街地に指定したのに、まだ空いているのではないか」と、そういう話が出てきます。 ただ、原宿台の中で空いているのは何かと言いますと、営農地です。「原宿台の中に農地を残したい」ということで区画整理事業を実施したものですから、農地という形で土地は空いているけれども、そこに家は建ちません、ということも一つ条件に入ってきてしまいます。 逆に、今、原宿台地内に農地を持っている人たちからは、宅地に変えてほしいと要望が寄せられています。相続するのに農地ではなく、宅地がいいということです。これも課題として出てきてしまっている。まだまだ原宿台に確かに余剰地はありますが、農地を宅地に地目変更するための条件が非常に難しいわけです。 南栗橋駅に近い所が、一番いいだろうと思うわけですが、先ほども申し上げましたが、民間事業者に進出していただいて、それを

	町が借り受ける、又は買い取るといった形で進める事業があり、そのような形で住居系市街地の整備をするという手法も検討に入れていますけれども、民間の大手のハウスメーカーが腰を引いているという所も見受けられます。 逆に、企業誘致は、インターがあるものですから、物流であれば幾らでも売れてしまいます。五霞町は、企業から見ると非常に優良なのですが、定住となると難しいということでしょうか。 そのほか、ございますか。 この公共施設の総合管理計画の中で、先ほど申し上げましたが、ちょうど 50 年前、高度経済成長期、オリンピック後に作った施設も多いものですから、施設も大きいと。 公民館しかりですが、国は、逆に「人口減少社会だからコンパクトにしろ」と言うわけです。庁舎もあれだけ古くなりましたので、建て替える場合は、公民館とセットにしろと。そうすることによって、補助金を出しますよと。国の方針にのっとってやっていただければ、ということです。 国の方も、人口減少社会を見据えた中での話ですから、以前のように大きい施設ということではなく、逆に「小さくしろ」「まとめろ」というのが、国の方針であるわけです。 この、施設を見合わせた中で、五霞町は先ほど申し上げましたように、今後の方針として小・中一貫にしても、統合にしても、西小学校の方に統合ということであれば、東小学校が、当然空いてきます。 東小学校の周りは産業系市街地で、企業誘致もしていますから、産業拠点にもなってくるかと思います。空いた教室をどうするか、これが、また一つの課題なのですが、千葉の方では、空いた教室をレストランにする、一人企業が入るようなテナントにする、また、学校自体を道の駅にするなどしているようです。 廃校になった後をどう使うか、五霞町もうまく活かしていけたらいいのかなと思います。この問題については、一步一步、皆さんに御理解を頂かないとできないことです。100 パーセントの合意形成というわけにはいかないと思いますが、じっくりといろいろな検討の場を持って、御理解いただくというような方向で進めていければと考えています。 では、今の経過につきましては、これでよろしいでしょうか。
--	---

	次に、その他ですが、全般に渡って何かありましたらお願いします。事務局は何かありますか。
鳩貝主幹	特にありません。 (出席者からは、その他特に意見なし。) いろいろ御協議いただきましてありがとうございました。 それでは、以上をもちまして、平成 30 年第 1 回五霞町総合協議会を閉会いたします。ありがとうございました。